

製品名: タウウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21058**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.2mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:79kD;Observed MW:50-80kD

抗原情報

遺伝子名	MAPT
別名	MAPT;MAPTL;MTBT1;TAU;Microtubule-associated protein tau;Neurofibrillary tangle protein;Paired helical filament-tau;PHF-tau
遺伝子 ID	4137.0
SwissProt ID	P10636
免疫原	ヒトタウの合成ペプチド

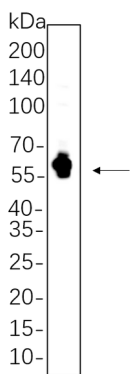
背景

細胞局在:細胞質、細胞質ソル。細胞膜; 表皮膜タンパク質; 細胞質側。細胞質、細胞骨格。細胞投射、軸索。細胞投射、樹状突起。分泌される。主にニューロンの軸索、細胞質ソル、および細胞膜成分と関連して存在する (PubMed:10747907)。分泌されることも可能であり、分泌はタンパク質のアンフォールディングに依存し、カーゴ受容体 TMED10 によって促進され、細胞質から ERGIC(小胞体-ゴルジ体中間区画)へのタンパク質転座を引き起こし、続いて小胞への進入および分泌を引き起こす (PubMed:32272059)。...この遺伝子は微小管関連タンパク質タウ(MAPT)をコードし、その転写は複雑で制御された選択的スプライシングを受けて、いくつかの mRNA 種を生じます。MAPT 転写産物は、神経系において、ニューロン成熟段階およびニューロンの種類に応じて異なる発現を示す。MAPT 遺伝子変異は、アルツハイマー病、ピック病、前頭側頭型認知症、大脳皮質基底核変性症、進行性核上性麻痺など、いくつかの神経変性疾患と関連付けられている。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

研究分野

-

画像データ



マウス脳全細胞ライセートを 10% SDS-PAGE で分離し、膜をタウウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でプロットングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。